

(別紙2)

審査の結果の要旨

氏名 張 継元

中国政府が長年「一人っ子政策」を続けてきたため（但し2016年に廃止）、中国社会では人口の高齢化が急速に進んだ。日本を含め先進諸国は経済発展を十分に遂げた後に人口の高齢化が進んだのに対し、中国は経済が十分に発展を遂げる前に高齢化社会に突入した。この状況は「未富先老」と呼ばれる。本論文は「未富先老」型の高齢社会の先駆例としての中国が、高齢者福祉政策にどう取り組んでいるかを扱う。

中国の社会政策においては、医療や年金などの社会保障がある程度整備されてくるにつれて福祉サービスへの関心が高まり、現在、とくに「社区福利」（日本の地域福祉に近い）が実務及び研究において重要な主題となっている。しかしこれまで社区福利の研究は都市が中心であり、農村は手薄だった。本論文は「未富先老」型高齢社会における農村の社区福利について、文献研究とフィールドワークに依拠しながら明らかにしている点に独自性がある。

第I部理論編では、これまで日本でほとんど知られることのなかった中国における「未富先老論争」を紹介しながら、中国の高齢化の特徴を記し、中国で社区福利が焦点化する必然性を論じる（1章）。また欧米の福祉ミックス論を参照しながら、農村社区福利を分析するための「四セクター+三手段」の図式を提示する（2章）。

第II部歴史編では、欧米のコミュニティの中国語訳として導入された「社区」の概念が、中国社会のなかで定着しつつ変容していくさまを分析し（3章）、農村福祉の変化を改革開放前、改革開放期、ポスト改革開放期という三つの時期区分のもとに追い（4章）、社区福利が都市だけでなく農村においても問題となってくる状況を明らかにする（5章）。

第III部では、農村社区福利の実態と福祉サービス供給構造をマクロとミクロのデータから示す。6章では、官庁統計を駆使しながら、老人福祉施設やケアサービスが全国的に不足し、地域間格差があることを描く。7章では、経済発展の度合や文化特性を考慮に入れながら、北京市、浙江省、河北省、甘粛省から計9か所の農村を選び、質的・量的双方の調査を実施し、村民委員会、老年協会、ボランティアなどの活動や農民の相互扶助の実態を村ごとに記す。その描写は鮮やかであり、読者を引きつける。8章では、調査対象地のサービス供給構造について住民参加を軸に再整理し、9章では三手段の観点から各村の状況をまとめる。

終章では、本論で得られた知見をもとに、中国研究と福祉ミックス論への貢献、政策的含意が考察される。

四セクター論と中国の諸組織との対応は慎重に行う必要があるものの、先行研究を批判的に摂取しながら、社会規制に関する新しい解釈を打ち出し、中国国内の多様性に配慮して大規模な調査を実施して知見を得ているなどの点で、本審査委員会は本論文が博士（社会学）の授与に値するとの結論に達した。